

PROGRESS REPORT · 韓国獣医界・学界のHAB活動36年

HABC発足までの経緯

The Road to HABC · 1990 – 2026

ボランティア・キャンペーンから獣医界の公式な議題へ。臨床の組織化と学問の分化を経て、学際プラットフォームHABCに至るまでの4度の転換

出典：韓国獣医界および学界における伴侶動物のヒューマン・アニマル・ボンド（HAB）活動の歴史 総合報告書（韓国獣医臨床フォーラム キム・ヒョンウク、2026.11.20）

02 HABC発足までの経緯 · The Road to HABC

36年、4度の転換を経てHABCに至る

ボランティア・キャンペーン → 臨床の組織化 → 制度への定着 → 学際プラットフォーム

01 1990 – 2005

黎明・概念導入期

「動物は私の友だち」キャンペーン

1994 KVMA HABシンポジウム

2003 HAB国際シンポジウム

02 2006 – 2016

臨床の組織化・学問分化期

2007 KAHA HAB事業団

圓光大学 専攻 · 建国大学 3R

2016 IAHAIO正会員

03 2017 – 2025

省察・制度定着期

2020 HABワンヘルス・フォーラム

2023 倫理綱領の全面改正

2024 行動指導士資格

04 2026

学際ガバナンス

ペットロス心理支援センター開設

獣医学生倫理綱領の制定

11.20 HABC正式発足

出典：韓国獣医界および学界における伴侶動物のヒューマン・アニマル・ボンド（HAB）活動の歴史 総合報告書（キム・ヒョンウク、2026）

02 01 1990 – 2005 · 黎明・概念導入期 · Emergence

ボランティア・キャンペーンが獣医界の公式な議題「HAB」になるまで

> 臨床獣医師の現場でのボランティアから始まり、1994年の獣医師大会、2003年の国際シンポジウムで公式化

1990 「動物は私の友だち」キャンペーン開始

韓国動物病院協会（KAHA）の前身が展開した、韓国における動物介在活動の嚆矢・1994年に日本のCAPPモデルを導入

1993 サムスン火災盲導犬学校の設立

1994年4月、韓国初の盲導犬「パダ」を輩出・獣医学の専門家が健康・行動評価の体制を支える

1994 大韓獣医師会、HABの概念を初めて紹介

全国獣医師大会シンポジウム「動物を通じた人間の情緒涵養」

2003 第1回HAB国際シンポジウム開催

11月2日 龍仁・米国Delta Societyと日本のCAPPを招聘・シン・ナムシク、チェ・ユンジュが発表・韓国動物福祉学会の創立

HAB

Human-Animal Bond

1977年に米国の獣医師Leo Bustadが名付けた概念。2003年のシンポジウムは動物を「尊厳と意識をもつ存在」と再定義し、AAA（動物介在活動）とAAT（動物介在療法）の区別を韓国の獣医界に確立した。

出典：畜産新聞（2003）・デイリーベット・大韓獣医師会誌 第39巻11号・総合報告書（キム・ヒョンウク、2026）

02 02 2006 – 2016・臨床の組織化・学問分化期・Institutionalization

常設の委員会と学位課程が生まれ、国際基準が入ってくる

> 一過性のボランティアを超え、専任組織・大学の専攻・専門学会・グローバルネットワークへと拡大

2007 **KAHA HAB事業団発足（4月1日）**

現HAB委員会・愛犬マナー教育講師の育成・病院訪問型CAPPの常設化・2014年に第1回HAB DAY

2007 **圓光大学 動物介在心理療法専攻・学会の創立**

韓国初の大学院専攻（2008）と韓国動物介在心理療法学会・2008年 建国大学3R動物福祉研究所の設立

2014 **獣医行動医学の始まり**

VIA動物行動クリニック開院・2015年 韓国獣医行動学会（KSVB）創立・行動の問題を「医学的疾患」として位置づけ

2016 **KAHA、IAHAIO正会員に加盟（7月10日）**

韓国で3番目の正会員・チェ・ユンジュ教授がIAHAIO白書TFに韓国代表として参加（2013–2018）

IAHAIO

人と動物の相互作用国際組織連合

1990年創立。世界90余りの学際団体が所属する、HAB分野で最も権威あるネットワーク。韓国は2014年の白書採択と2018年の改訂（セッションを30–45分に制限、獣医学的な予防管理を義務化）に参加し、グローバル基準を受け入れた。

出典：デイリーベット・デイリー開院・圓光大学・IAHAIO White Paper（2014/2018）・総合報告書（キム・ヒョンウク、2026）

02 03 2017 – 2025・省察・制度定着期・Reflection & Policy

倫理綱領と国家資格によって、HABが制度の中に根づく

> 獣医人文社会学の省察が、31年ぶりの倫理綱領改正と国家R&D・法定資格へとつながる

2019 **ソウル大学動物病院 行動医学クリニック開設**

ヨン・ソンチャン教授・一次病院との紹介・逆紹介体制・同年、人間動物研究ネットワーク（HAS）結成

2020 **HABワンヘルス・フォーラム（11月20日、KINTEX）**

韓国動物病院協会・韓国獣医臨床フォーラムの共同主管・韓国におけるHABの社会経済的効果に関する研究の必要性を提起

2023 **獣医師倫理綱領、31年ぶりの全面改正（2月28日）**

VCPR・説明・同意の義務・痛みの最小化・ワンヘルスの公的責務を明文化・2021年 韓国獣医人文社会学会発足

2024 **伴侶動物行動指導士の国家資格・気質評価委員会**

2年間で634名を輩出・獣医師と行動指導士による法定の共同審査・2025年7月 韓国伴侶動物行動医学協会（KABA）発足

6年前、同じ日、同じ場所で

2020.11.20 一山 KINTEX

HABCの直接の前身。猫との共生、ライフステージ別のHAB効果、ともに歩く散歩と健康、動物介在療法の臨床報告を一堂に会して発表し、「学際的な研究組織の不在」を課題として残した。

出典：デイリーベット・BEMYPET（2020）・大韓獣医師会・農林畜産食品部・総合報告書（キム・ヒョンウク、2026）

2026年、ケア・倫理・学術の3つの流れが一年に集まる

> 発足直前の1年、臨床・教育・学術の現場で同時に起きた変化

2026・1月

ペットロス心理支援専門センター開設

ヘマル動物病院「伴侶の心センター」・韓国初の動物病院内の心理支援スペース・9月から外部の飼い主にも拡大・獣医師–心理カウンセリング連携モデル

2026・2月

獣医科大学 学生倫理綱領の制定

2月28日制定、3月14日宣布・韓国初の獣医師の卵のための行動基準・ワンヘルス・ワンウェルフェアと獣医師–飼い主–患者の三角関係を明記

2026・6月

世界動物保健歴史学会（WAHAH）ソウル開催

第47回大会、アジア初・19か国から100名余り・ソウル大学 獣医人文社会学教室・ソウル市が動物介在ヒーリング事業に着手

規制の言語
Regulation

→

価値の言語
Science-based Value

事故予防中心の政策を超え、科学的根拠によってHABの公衆衛生・社会福祉上の価値を立証する学際組織の必要性が鮮明になった年

出典：デイリーベット（2026）・韓国リサーチ・ソウル大学 獣医人文社会学研究室（2026.5）・総合報告書（キム・ヒョンウク、2026）

GLOBAL CASE 米国・HABRI・Human Animal Bond Research Institute・habri.org

産業が資金を出し、科学が根拠をつくる米国のHABRI

2010年設立、ワシントンDC・非営利の研究・教育機関・科学 → 教育 → 政策提言の好循環

HABRIとはどのような組織か

設立	2010年・APPA・Zoetis・Petcoが共同設立
ミッション	科学・教育・アドボカシーによりHABの健康価値を立証
研究	HABRI Central、世界最大のHAI研究ライブラリー
支援	研究課題に300万ドル以上を助成（子ども・老化・メンタルヘルス）

2026 HABベンチマーク調査（米国成人の代表サンプル）

74%
米国人のペット飼育率

98%
健康上の利点を経験した飼い主

97%
研究で明らかになった利点を認知

62%
HABを説明する獣医師を希望

HABCへの示唆
Implication

産業（ペットフード・製薬・小売）が資金を出し、大学と研究団体が根拠を生み出し、その根拠で政策を変える。

出典：HABRI, About / Mission & Vision (habri.org)・HABRI 2026 Human-Animal Bond Benchmark Survey of Americans (2026.10.19)

2026. 11. 20・一山 KINTEX・Human-Animal Bonding & Interaction / Connection Forum 2026

HABC 正式発足

Human Animal Bonding Connection

36年にわたるボランティアと臨床、学問と制度が、獣医学・補完代替医療・心理学・社会福祉学をつなぐ、人と動物の絆の学際的な研究・交流プラットフォームとして結集します

獣医学	補完代替医療	心理学	社会福祉学
Veterinary	Complementary and Alternative Medicine	Psychology	Social Welfare

主催 韓国獣医臨床フォーラム・主管 株式会社リーダーズフォーラム・発足主導 キム・ヒョンウク 獣医学博士・講演者 ファン・チョルヨン・ユ・ミナ・越村義雄

Reference

韓国獣医界および学界における伴侶動物のヒューマン・アニマル・ボンド（HAB）活動の歴史 総合報告書

作成日	2026年11月20日
調査	韓国獣医臨床フォーラム キム・ヒョンウク会長（株式会社リーダーズフォーラム 理事長）
方法	Gemini 4.0 Carbon Deep-Research・参考資料147件
範囲	1990–2026、獣医界の臨床組織・大学・学術団体・倫理・国家政策・学際ガバナンス
形式	Google Docs（オンライン閲覧・韓国語）

https://docs.google.com/document/d/1NBgUld9i26cC1EmTIVz8mLw_j9ObSXpFVVchv0ZRfhc

本経緯報告は、上記報告書の主要な転換点を抜粋・要約したものです。詳細な沿革、人物、各出来事の出典147件は原文でご確認いただけます。1990年を起点とすることをめぐる論争など、史料解釈上の注意点も原文にまとめられています。

QRコードで原文を見る

カメラでスキャンするとGoogle Docsの原文が開きます

出典：キム・ヒョンウク（2026）. 韓国獣医界および学界における伴侶動物のヒューマン・アニマル・ボンド（HAB）活動の歴史 総合報告書（韓国語）. 韓国獣医臨床フォーラム.